

(様式2)

校 種	小	学校番号	1 6	学校名	宇都宮市立石井小学校
-----	---	------	-----	-----	------------

令和2年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・教科に関する調査の領域別平均正答率を見ると、全ての観点で平均を上回っている学年、県や市よりもやや下回っている観点がある学年と、学年によって多少の差が見られる。
- ・各教科の平均正答率を設問ごとに見ると、正答率の高い設問と低い設問が学年によって違うことから、それぞれの学年としての課題がある。
- ・国・県・市の調査ともに記述式設問の無回答率が少し高い傾向にある。自分の考えを文章にまとめて書くことに抵抗感をもっている児童がおり、力が十分に身に付いているとは言えない。
- ・高い学力を示す児童が多数見られる一方で、身に付けた知識や技能を十分に発揮できない児童もおり、定着に個人差がある。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・県・市の調査ともに「家で、学校の宿題をしている」「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は大体90%付近で、県や市の平均を上回っている学年が多い。
- ・市の調査で4～6年生の「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」に肯定的に回答した児童の割合は70～80%程度で、市の平均と比べ高い。3年生については、市の平均と比べて低い傾向にある。1・2年生については、「宿題はきちんとやっていますか」の項目で100%である。
- ・市の調査で「学校の勉強（学習）の他に、1日にどれくらい勉強（学習）していますか」の設問では、学校や市の目安としている時間に満たない児童が全学年で約2～3割程度いる現状である。
- ・市の調査結果から話し合いへの積極的な参加や聞く態度の面では肯定的に回答した児童の割合が高い学年と低い学年が半数である。また、市の調査の「自分の考えを、理由や根拠をあげながら話すことができる」に肯定的に回答した児童の割合が高い学年と低い学年が半数であり、自分の考えをまとめ、根拠を挙げながら話すことを苦手とする傾向がある。

(3) 授業等への取組状況から

- ・学習意欲が高く、与えられた課題に真面目に取り組むことができている。
- ・多くの児童が目標をもって授業に臨み、確かな学力を身に付けようと努力している。
- ・自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりすることはできるが、友達同士での意見の交流が続かない傾向がみられる。また、友達の考えを聞き、その考えを生かして自分の思考を深めていこうとすることができない傾向にある。
- ・家庭学習では、宿題をきちんとやる習慣は身に付いているが、自分で計画を立てて自主学習に取り組む態度は十分とは言えない児童もいる。

2 今年度の重点目標

「自ら考え、ともに学び合う児童の育成」

～道徳科の授業研究を通して～

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和2年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

（1）基礎・基本の確実な定着

- ★□ 朝の活動を活用した漢字の読み書きや計算力などの基礎学力の定着（通年）
- ★□○話の聞き方、発表の仕方、思考過程が分かるノート指導など、基本的な学習態度の指導の充実（通年）
- ★□○授業において身に付けさせたい力を明確にし、「目標やめあての設定」、「まとめ」「振り返り」を一体的に行う授業づくり（通年）
- ★□○「宇都宮モデル」を活用し、新学習指導要領の趣旨を具現化した授業実践（通年）
- ★□ 「宮・未来キャリア・パスポート」の活用による学習活動の振り返りや自己評価の実施による児童のキャリア形成の指導（通年）
- ★□ 外国語科・外国語活動における児童の資質・能力の向上に向け、インタラクティブな英語によるやりとりを中心とした授業づくり（通年）
 - 各教科で身に付けた学力を知識及び技能を生活科や総合的な学習を中心に教科横断的に活用することで資質・能力を育成することができるようなカリキュラム・マネジメントの充実（通年）

（2）学習指導の工夫・改善

- ★□ 学力調査・アンケートの結果分析に基づく指導の改善（4月・10月）
- ★ 習熟度別学習・少人数学習等の工夫改善による効果的な学習指導の実施（通年）
- ★□ 一人一授業の実践により「児童が『見方・考え方』を働かせて課題にじっくり取り組む授業」に向けた授業改善（通年）
- ★□○互いのよさを生かしながら協働して課題に取り組む態度を養うための話し合い活動や意見交換など、学習形態の工夫・改善（通年）
- ★□○タブレット型PC等のICTを活用し、児童が主体的に学ぶ授業の実践（通年）
- ★ 各教科におけるプログラミング教育の実践を通じた論理的思考力の育成（通年）
- ★□○「宇都宮学」や「道徳科地域教材」を用いた郷土への愛情を育む指導の工夫（通年）
- ★□○児童が自ら考え、ともに学び合うことにより道徳性を養う道徳科の授業実践（通年）
- ★□ 児童が安心して互いに高め合える学級集団の育成（通年）

（3）読書活動の充実

- ★□ 朝の活動を利用した全校一斉の読書活動の実施（通年）
- ★□ 校内読書週間の実施（6・11月）
- ★□ 読み聞かせボランティアによる読み聞かせの実施（通年）

（4）家庭・地域との連携・協力

- ★□ 家庭との連携・協力による宿題や自主学習等、家庭学習の習慣化（通年）
 - 単元や学期ごとに復習する機会や、学年末のまとめの学習月間の実施（2，3月）
- ★□ 家庭学習の時間確保・適切な内容選択などのために「石井っ子の学習」「家庭学習のすすめ」「家庭学習の進め方」の効果的な活用・配付（通年）
- ★□ 家庭学習強化週間の実施による学習意欲の喚起と学習状況の振り返り（9・12月）
- ★□ 人・自然・地域との関わりを通じた体験活動や読書活動の充実を図るための地域協議会や学習ボランティアの協力を得た授業や学習支援の実施（通年）
- ★ 学校便りや学年便り、ホームページによる学習活動の様子等の積極的な配信（通年）

（5）教職員の指導力の向上

- ★ 若手教員育成システムを活用した各教員の資質・能力の向上（通年）
- ★□ 若手教員の授業力や学級経営力の向上にむけた校内授業研究会の実施（適宜）